

会 議 録

会議の名称	令和3年度第2回富士見市社会教育委員会議
開催日時	令和3年8月2日（月）午後7時00分～8時00分
開催場所	中央図書館 視聴覚ホール
出席者	古澤立巳議長、佐々木眞理子副議長、荒川照子委員、京谷恵子委員、渡邊知広委員、富士伸委員、事務局
欠席者	吉田徹子委員、蘇武伸吾委員、吉田和江委員、内海幸一郎委員
公開・非公開	公開（傍聴人 0人）
会議次第	1 オリエンテーション 2 テーマについて 3 閉会
会議資料	定期刊行物
会議録確認	古澤立巳議長

会議内容

1. オリエンテーション

- 議長あいさつ
- 自己紹介
- 関係委員等選出

2. テーマについて

【議長】 テーマの選出の前にこれまでの会議の進め方を確認する。一つのテーマを設けて、それについて委員同士意見を交換しながら、富士見市ないし富士見市教育委員会に対する提言書を作成し提出してきている。作成する過程の中で、テーマに関連する団体や活動があれば、見学するなどしてきた。また、各委員が持っている知識等を交換しながら進めてきている。今期も同じように進められれば。テーマについては各自考えてきてもらい、次回会議で意見交換を行い決めていきたい。配布したレジュメをご覧ください。これまで取り扱ったテーマを参考として挙げている。30期は、放課後の子どもたちの学習活動の場の提供について扱い、改善点等を提言書としてまとめた。31期は、若い世代の地域活動への参加が少ない現状を問題として、どうやったら若い世代が地域の活動に参加してくれるのか、また世代を越えた繋がりを作るためにはどのような取組が望ましいのか、提言書としてまとめた。32期は事務局より提示されたテーマについて扱った。前期は成年年齢が引き下げられたことから成人式典の在り方について、また後期は地域子ども教室について、それぞれ議論し提言書を作成した。本日、事務局より各種資料が配布された。また前期の提言書も配布されている。これらを参考に、各自テーマを考えていただければ。

【事務局】 本日は「第3次富士見市生涯学習推進基本計画」、「富士見の公民館」を資料として配布した。これらを参考にしていただければ。他に「富士見の教育」や各事業の報告書も参考になるかと思う。必要であれば事務局に連絡をいただければ。

【議長】 次回の会議からテーマを決めていくが、現段階でなにか意見があれば伺っていききたい。

【委員】 ここ何年かは、若い世代に焦点を当てたテーマを扱ってきた。今期は地域を支えている高齢者や、いきいきと高齢者が活動できる場というものを考えてもいいのでは。また、現役世代の方が地域で活動できるような仕組みについて考えるのもおもしろいと思う。

【委員】 32期は事務局からテーマが示された。今期もなにか事務局からあればそれを示してもらえれば。

【委員】 公民館運営審議会の方で、コロナ禍における公民館利用をテーマとしていたかと思う。社会教育委員会議とは視点が違うとは思いますが、重なってしまうのは避けた方がいいのではないかと思う。公民館の利用者の時から持ち続けている自分自身のテーマとして、世代の隔絶というものがある。今の高齢者は、子育てをしていた現役世代の頃から、社会教育とは

知らずの状態ではあるが、社会教育に携わってきた。そして今70代くらいになっている。少し下の世代も同じくついてきているが、その下の今の40代、50代の世代が飛んでしまっており、あまりかかわりが持っていない。さらにその下の30代、20代の世代は、子供を連れて公民館に来ているが、公民館利用者の世代に間が空いてしまっているように感じる。子育てが終わって仕事に戻り、社会教育や地域とのかかわりが薄くなっているのではないかと考えているが、それが一番気になっている。子供たちを対象にしたサークル活動などをしていたが、その世代は比較的関心が薄かったように思う。次の担い手を見つけるのが難しかった。その地域に住み続けるのであれば、目を向けてほしい、関心を持ってほしいという思いがずっとあった。私たちの下の世代から、うまくつながっていない。大きな課題であるので、明確な答えを出すのは難しいと思うが、扱ってみてもいいのではないかなと思う。

【事務局】 40代から50代の地域離れということか。

【委員】 もう少し下の世代から地域に入ってきていないように感じる。子供が小さい時は、子供を連れて公民館に来て、地域の人とかかわりを持ち、地域の活動にも少し携わっている。しかし子供が卒業してしまうと、地域活動にはかかわらなくなってしまう。昔であれば、自分の子供が終わったら次の子供たちのことを考える、という風潮があったと思うが、今はそれがなく、どこかで途切れてしまっている。少しかかわるだけでいいのだが、その「少し」ができなくなっている。その理由はなにか。40代などはパワーがある世代。地域の活動にかかわってもらえるように、その方法を考えてみるのもいいのではないかなと思う。仕事をしている世代であるので、その知識や知恵を地域で生かしてもらえればと思うのだが、「忙しい」と言われてしまうとやはり声はかけづらい。少しずついいので活躍してもらえたり、機会があったりすればいいなと考えている。

【議長】 今の話について、中身はまた後でいいと思うが、テーマ化するとしたらどのようなテーマがいいだろうか。次回までに考えててもらえれば。

【委員】 一つ質問がある。提言書を作成するにあたり、委員として作成した部分と、事務局として作成した部分があると思う。たとえば、今回配布された32期後期の提言書を見ると、聞き取り調査などは事務局が行っている。提言書を作成するにあたり、社会教育委員と事務局と、どのような関係で作っていたのか。

【議長】 社会教育委員が個別に動くのは難しい部分がある。各種資料も事務局が持っており、庁内他課の持つ資料等は事務局に用意してもらう方が効率的。実務的な部分については事務局に力添えをいただいているのは確か。一つの提言書を作るにあたり、検討事項に対して各委員の考え方や知識を出し事務局で集約、会議の場で共有し、議論し、またそのプロセスを繰り返すことで、社会教育委員として意見をまとめ、提言書という形にする、というのがこれまでのパターン。また調査研究として、例えば30期の時は実際に子供たちが学習している会場に行き実態を確認したり、32期の時は子ども教室のスタッフの方をお招きして意見を聞いた

りして認識を深めるという作業を行ってきた。

【事務局】 32期について言えば、各子ども教室の活動の場に赴き、活動を見ることができればよかったのだが、コロナの影響で活動がおこなえている教室がなく、話を聞くにとどまってしまった。しかしスタッフの方への質問事項は委員に出してもらった。課題の整理、質問事項の整理等は委員に意見を出してもらい、それを事務局の方でまとめるというプロセスで提言書をまとめてきた。

【委員】 承知した。テーマについて二つ考えていることがある。まず一つ目は、これまでの社会教育委員会議で、話の俎上には挙がったものの、テーマとしては扱われなかった議題。提言書としてまとめられても良いと考えられるテーマであるならば、それを俎上に挙げなおすというのも良いのではないかと考える。二つ目は、社会教育からは少し離れてしまうかもしれないが、誰かがやってくれたものを享受するのみの受動的な人が多い中で、昨今話題に上がることの多いSDGsを、どのようにしたら多くの人に自分事として捉えてもらえるのか、自分の生活の中に落とし込み取り組んでもらえるのかということ。これを一つ提言できると、それはより良い社会づくりという観点からも、大きな意義があるのではないかと思う。横浜市などはSDGsについて積極的に取り組んでいるが、SDGsについてしっかりと発信できている自治体は決して多くないので、富士見市としてもいいのではないかと思う。

【委員】 これまでの委員の話の中で出た、40代の世代のつながりの薄さは確かにそうだと感じるので、テーマの一つとしてもいいかと思う。また、水谷小学校区について、子供がかなり増えてきている。テーマとしてはまだ具体的に固まっていないが、関心があるので各種資料を見ながら、子供の増加について考えてみたいと思う。

【議長】 委員からいろいろな意見をいただけた。これからの手順を確認しておきたい。今回は欠席されている委員も多いので、次回の会議でテーマを決定することは難しいと考えている。まずは各委員が持つテーマや興味関心をテーマ化していただき、次の会議ではそれを共有し話し合っってテーマの候補を絞る。そして更にその次の会議で、テーマを決めていくという手順を考えている。また教育委員会の方から社会教育委員会議への諮問があれば受けたいと思うので、事務局には確認しておいていただければ。私自身としては社会教育委員会議と教育委員会の関係について関心がある。これまで様々なテーマを提言書としてまとめ教育委員会に提出してきたが、それを教育委員会がどのように受け止めているのか、反応が一向に返ってこない。教育委員会からの諮問を受けて社会教育委員会議が調査研究し、一つにまとめ提言する、というのが本来の姿だと考える。難しいかもしれないが、教育委員会と社会教育委員会議の関係はどうあるべきか、ということもテーマになり得るのではないかと思う。次回までに今回出された意見や、各委員お持ちの興味関心を2、3個テーマ化していただき、次の会議の場で共有するという形にしようと思う。それでよいか。

【委員】 全員承認。

次回会議日程

令和3年度第3回会議

日程：令和3年9月13日（月）午後7時～

場所：中央図書館 視聴覚ホール

3. 閉 会